

令和6年度 日南市立細田小学校 自己評価書 および 学校運営協議会評価書

学校経営ビジョン

全職員が一体となってチームワークを深め、家庭、地域、関係機関と連携・協働し、児童一人一人の将来を見据えた学習指導、生徒指導、特別支援教育を推進することで、教育目標の具現化を図る。

評価項目	主な達成手段	評価基準	対象	評価値 (満点4)	学校の考察	学校運営協議会委員の意見
学びに向かう力の育成（知）	◎1 「主体的・対話的で深い学び」を 視点とした授業改善	学力が身に付いているという職員の認識	学校	3.11	<ul style="list-style-type: none"><li>学力に関する児童、保護者の認識は、大変よい結果となっている。しかし、個人差もあり、特に語彙力の少なさや体験の乏しさが学力の低下につながっていると考えられる児童も見られるため、今後はその改善のために読書活動や体験活動に力を入れていく必要がある。</li><li>ICT機器を活用しながら個別最適な学びや協働的な学びの在り方を探る研究授業を各自が行った。特に教育支援アプリ「ロイノート」を使い、思考力を高めるためのシンキングツールの活用について研究を深めた。11月に行われた市教委の支援訪問では、低学年からICT機器を使いこなしていることを称賛された。</li><li>図書貸し出し数は、12月初旬現在で全校合計1895冊(たいよう号含む)と、3月には目標である年間2300冊(1人平均100冊)に届きそうな状況である。ただし、個人差も見られるため、今後も読書まつりや家読(うちどく)の日の取組に加え、週1回来校の図書司書との連携や、市の巡回図書室(たいよう号)、GAYAの読み聞かせなどを継続しながら、児童の読書への興味・関心を高めていく必要がある。また、週に1回程度、学校で読書をする時間を設定し、読書の習慣を付けていくことも効果があると考え。さらに、保護者の家庭での読書習慣に対する認識を高める必要から、本年度より始まった県立図書館のひなた電子図書を活用し、週末はタブレットを持ち帰って読書することも進めていく。</li><li>キャリア教育に関しては、5月の参観日に永野建設の永野伸弥様をお招きし、自分の将来に夢や希望を抱くことのできる内容の講話を行った。児童の評価値が昨年度にくら比べて伸びている。身近にいる大人の話聞き、将来に夢や目標をもつことはとても大切である。キャリアパスポートを活用し、目標に向かって努力する習慣を付けていきたい。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>家庭では、読書をする姿がなかなか見られないので言葉を書き知らない、覚えにくい。</li><li>本の貸し出し冊数はクリアしているが、借りても読まない子どもも多い。少ない冊数でもよいので、中身をしっかりと読み取ってほしい。</li><li>幼少期に家庭で親が本を読み聞かせることも減っており、それも語彙が少ない原因ではないか。</li><li>読書の時間の後に感想や本の紹介を言わせることよい。</li><li>算数の宿題に取り組んでいる様子を見ていると、数字しか見ていないので、問題文を読み取る力が必要である。</li><li>タブレットや思考ツールなどを使っている学習は、昔の学校と随分違っているが、漢字などを見るには繰り返しの学習も必要である。</li></ul>
		授業が分かりやすいと思う児童の認識	児童	3.56		
		学力が身に付いているという保護者の認識	保護者	3.46		
		主題研究の取組状況	学校	3.33		
		タブレットの操作に慣れているという児童の認識	児童	3.72		
		情報端末機器の扱いに慣れているという保護者の認識	保護者	3.23		
	◎2 読書活動の充実	読書活動が定着しているという認識	学校	3.00		
		学校図書館の貸し出し冊数状況	児童	3.30		
		本や新聞などの活字を読む習慣ができていているという認識	保護者	2.69		
	◎3 キャリア教育の実践・推進	キャリア教育の取組状況	学校	3.11		
		将来の夢・目標に関する児童の認識と状況	児童	3.26		
豊かな心と社会性の育成（徳）	◎1 基本的な生活習慣の形成と規範意識の確立	基本的な生活習慣等が定着しているという認識	学校	3.50	<ul style="list-style-type: none"><li>豊かな心と社会性の育成の3項目については、どれも職員や児童の振り返りより保護者の数値が低くなっている。児童は学校の顔と家庭の顔に隔たりがあることが考えられる。学校での取組が家庭でも生かされるような取組にしていける必要がある。</li><li>児童は落ち着いた態度で学校生活を送っている。今後もあいさつやきまりを守ることにについては、発達の段階に合わせて、各学級で指導を繰り返していく。</li><li>思いやりや助け合いの心の育成については、今後も小規模学校のよさを生かし、上級生が下級生に優しく接することやお互いのよさを認め合うこと、教師が児童の行動を称賛していくことで細田小の「優しい風土」が継続されるようにしていく。</li><li>いじめや不登校については、児童アンケートや教育相談を行いながら、早期発見や早期対応の取組を行っており、令和6年度に重大事態につながるようないじめは起きていない。不登校については、本年度はケース会議を開いたり、外部機関と連携したりしながら対応し、改善に向けた取組を行っているところである。</li><li>家庭での環境美化の習慣についての数値が低くなっている。学校では、少ない人数ながらも清掃活動に取り組んでいる。机の中やロッカーの整理整頓など身の回りをきれいにする指導を継続し、学校での指導が家庭でも生きるようにしていく必要がある。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>あいさつが大事だと家庭で指導している。</li><li>放課後子ども教室に来る時、子ども達は元気なあいさつをして入ってくる。</li><li>相手を思いやる心が少しかけている気がする。友達のよいところや悪いところを言ってくる子どもが多い。保護者にも友達の悪いところを報告している。</li><li>放課後子ども教室では、子ども達はよく一緒に遊んでいる。友達の悪いことの言いつけを聞くこともあるが、一緒に遊ぶということは仲のよい証拠である。</li><li>子どもは場所や状況でいろいろな顔を使い分けている。その使い分けも成長につながる。</li></ul>
		進んであいさつをしている児童の認識	児童	3.53		
		学校のきまりを守っているという児童の認識	児童	3.53		
		基本的な生活習慣が定着しているという保護者の認識	保護者	2.85		
	◎2 思いやりの心の醸成	思いやりの心を醸成する活動に努めたかという認識	学校	3.30		
		友達と助け合い、思いやりのある行動をしているという児童の認識	児童	3.63		
		友達と助け合い、思いやりのある行動をしているという保護者の認識	保護者	3.08		
	◎3 環境美化活動の充実	清掃時間の児童の取組状況	学校	3.80		
		清掃時間の児童の認識	児童	3.68		
		環境美化の習慣が身に付いているという保護者の認識	保護者	2.77		
体力向上と健康安全意識の育成（体）	◎1 健康や食に対する意識の向上	健康・食育指導の実施状況	学校	3.67	<ul style="list-style-type: none"><li>児童の生活習慣については、定期的に行っている「さわやかチェック」の「朝ご飯」の項目では、ほぼ全ての児童が朝ご飯を食べてくることができ、改善が見られた。9月の参観日で親子で朝ご飯づくりに挑戦したり、給食の時間等に栄養教諭を中心にした食育の指導を行ってきたことが改善につながったと考えられる。ただし、本年度はさわやかチェックの「睡眠」の項目で課題のある児童が多く見られるため、改善に向けて工夫をしていく必要がある。</li><li>体力を高める運動として、体育学習時の最初に行う「わくわく運動」や、朝の始業前の「体力パワーアップメニュー」に取り組んできた。また、天気の良い日の昼休みに、元気よく外で遊ぶ児童の姿も見られる。体力テストの結果を見ても、A判定の児童が多く見られることから、体力に関してはしっかりと力を付けていることが伺える。今後も体育の授業を中心に、個々の実態に合わせて体力向上を図っていく。</li><li>本年度も、より現実的で実践的な避難訓練を行った。安全な行動の仕方に関する児童の評価値が非常に高いことから、多くの児童が災害時の行動を理解していると考えられる。今後も「いのちを守る教育」を継続していく。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>家庭で自分用のスマホやタブレットを持つのが当たり前になっており、Youtubeなどをずっと観ている子どもも多い。家庭では、夜は部屋を少し暗くしたり、ブルーライトをカットしたりして、兄弟でも寝る時間が違い、下の子の方が遅くまで起きていることもある。</li><li>夜寝るのが遅いと朝起きることができない。睡眠不足だと機嫌も悪く、朝ごはんも食べない。</li><li>参観日の「食の指導」は大変良かった。子どもも保護者も勉強になった。</li></ul>
		生活習慣の改善	児童	3.00		
		早寝早起き朝ごはん等ができていているという保護者の認識	保護者	2.69		
	◎2 発達や成長を支える基盤となる体力向上	スクールスポーツプランが機能しているという認識	学校	3.22		
		体力が向上したという児童の認識	児童	3.21		
		体力の向上の習慣ができていているという保護者の認識	保護者	2.69		
	◎3 安全や防災に関する、命を守る 能力・態度の育成	安全指導の取組状況	学校	3.60		
		安全な行動の仕方が身に付いているという児童の認識	児童	3.76		
		安全な行動の仕方が身に付いているという保護者の認識	保護者	3.15		
地域とともにある学校づくりにも推進	◎1 家庭・地域との積極的な協働・連携	地域の素材・人材の積極的な活用に努めているという認識	学校	3.22	<ul style="list-style-type: none"><li>本年度も地域ボランティア活動や、交流グラウンドゴルフ活動といった、地域との連携や地域人材を活用した学習を行った。児童と保護者の「地域の行事に参加できている」という認識が高いという結果も踏まえ、次年度は教育課程内に地域に出て行けるような内容を検討していく必要がある。</li><li>参観日の出席率は、12月までで85%となっている。ただ、世帯数が減ったことや兄弟姉妹関係もあり、授業参観者がいない時間やずっと1人しか参観者がいない学級もあった。</li><li>学校便りや学級通信、学校HPを通じて、必要な情報の発信を行っている。本年度はマチコメールも導入し、必要に応じてすぐに保護者にメッセージを配信できるようにした。</li><li>児童の実態や社会のニーズに合わせ、年度途中でも教育課程の修正を行っている。学校運営協議会に全職員が参加し、委員の声をダイレクトに教育課程に反映できるようにしている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>地域の行事(細田プロジェクトなど)は、年々参加人数が減っている。子ども達にも話合いに参加してほしいが、時間的に難しい。</li><li>保護者も共働が多く、地域の行事になかなか参加できない。</li><li>授業に地域の人材を活用することができるので、必要に応じて、学校から地域コーディネーターにボランティアの要請があるとき動きやすい。</li><li>児童クラブがないと新入生の親は細田小への入学を敬遠する。</li></ul>
		地域の行事に参加できているという児童の認識	児童	2.63		
		地域の行事に参加できているという保護者の認識	保護者	2.62		
	◎2 家庭や地域との情報共有の推進	学級通信やHPを通じて情報発信に努めているという認識	学校	3.60		
		参観日や懇談の保護者の出席状況	保護者	3.40		
	◎3 教育課程の工夫改善	教育課程の改善に日々努めているという教師の認識	学校	3.30		
		家庭や地域の声を生かした教育課程が作成されている保護者の認識	その他	3.00		

次年度の方針

【学びに向かう力の育成(知)】主体的・対話的で深い学びの視点で授業を改善し、児童の書く力・読む力を高める具体的な手立てを工夫する。また、児童の読書への興味・関心を高め、家庭との連携も図りながら読書活動の充実を図る。  
【豊かな心と社会性の育成(徳)】小規模校のよさを生かし、児童にポジティブな行動支援を積み重ねていくことで、細田小の「優しい風土」が校風として形成されていくようにする。また、児童委員会活動の見直し・改善を図り、児童の自主的・自発的活動を推進する。  
【体力向上と健康安全意識の育成(体)】健康・食に対する意識の高い児童の育成を目指し、授業改善や具体的な手立てを一層工夫する。また、平時から児童の安全意識を高め「いのちを守る教育」の充実を図るとともに、現実的・実践的な避難訓練を実施する。  
【地域とともにある学校づくり推進】コアカリキュラム「細田小ふるさと学習」を軸に地域との交流を推進し、地域人材や地域素材の積極的な活用を図ることで、地域と共にある学校づくりに努める。